

編 集 後 記

本年7月に第62回日本消化器外科学会定期学術総会が東京で開催された。学会ホームページ上の上西紀夫教授の会長挨拶は「これまで消化器外科医と呼ばれた場合、国民や患者から尊敬と信頼を集め、若い医師も我れブラックジャックにならんと憧れ、意欲を燃やしてきました」と始まっている。手塚治虫漫画作品のブラック・ジャック（以下、BJ）は外科医を象徴するキャラクターとして広く知られ、若手外科医の羨望の的でもある。手塚作品の中でBJが肝臓外科に取り組む一編を紹介する。

BJは子供の時に同級生より皮膚移植を受けた経験から移植医療にとっても熱心であった。原作第102話「奇妙な関係」では生体肝移植が登場する。レシピエントは、3000万円（コミック版では1億円）を強奪し時効寸前の犯人、ドナーは、その強盗犯を追い続けている刑事である。犯人は追跡から逃れる途中、拳銃で腹部を撃たれ肝損傷を負い、BJに助けを求めてやってくる。犯人は肝損傷により臓器移植を受けないと救命できないと宣告される。刑事は追跡途中に交通事故で両足を骨折、偶然にもBJを訪ねる。BJは刑事の肝臓を使うことを考えつく。両足の骨折治療費1000万円を請求しない代わりに肝臓の提供を要求する。お互いの関係を知らないまま刑事は肝臓の提供に同意し犯人は移植を受ける。手術は成功、犯人は治療費3000万円を請求され、盗んだ現金を手放す。BJは3000万円を刑事に渡すことで一件落着する。本作の初収録は1975（昭和50）年12月15日号の週刊少年チャンピオンである。実際の生体肝移植は1988（昭和63）年12月にブラジルで世界第1例目が施行され、さらに世界初の成功例は1989（平成元）年7月に豪州で経験された。現実の13年も前に生体肝移植の概念を考え付き、手術成功例を報告している手塚先生の先見の明に感服する。残念ながら、手塚先生は1989（平成元）年2月9日に逝去されたが、その9ヵ月後（同年11月13日）に日本初の生体肝移植が島根医科大学で行われた。以後、京都大学、信州大学において生体肝移植が開始され、現在わが国は世界のトップリーダーとなっている。

現実の医学研究においても予測や推測を論文として記載することがしばしば有り、改めて論文化の重要性を認識させられる。それはより高いレベルの消化器外科を築くことに繋がっていくであろう。

（高山忠利）